

〔園 芸〕

セルリーのす入り防止に関する研究

難波宏之・近藤雄次  
(福岡県園芸試験場)

NANBA, H. and KONDO, Y.

Studies on the Prevention of Pithiness in Celery

試験方法

供試品種は黄色種3品種、緑色種7品種、は種期および栽培条件は第1表のとおりである。区制は1区制で、1区面積7m<sup>2</sup>、栽植株数は24株とした。

第1表 試験区

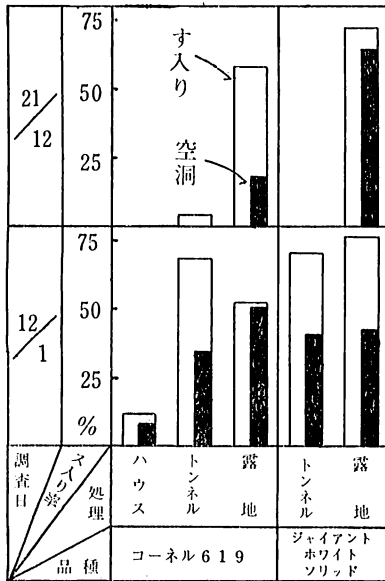
は種日	処 理		トンネル		ハ ウ ス	
	露 地	マルチ	マルチ	トンネル	マルチ	トンネル
5月25日	○	○	○	○	○	—
6月25日	○	—	○	○	○	○

注) 保温処理開始 11月15日

試験結果および考察

最低気温は露地に比べてトンネルは平均1.2°C、

第1図 保温方法とす入り



注(は種日6月25日)

ハウスは4.5°C高かったが、す入り時期はハウスが最も遅く、ついでトンネル、露地の順で、す入り程度についても同様な傾向を示し、保温の効果が顕著であった。現在最も広く栽培されているコーネル619については、露地では12月上旬頃が収穫の限界とされたが、トンネルでは12月下旬、ハウスでは1月中旬まで品質の維持が可能で、トンネルで2~3週間、ハウスでは4週間程度の収穫期間延長が見込まれる。

ビニールマルチによつて最低地温は約1°C上昇したが、無処理との間にはほとんど差が見られなかった。地温を高めて根の養水分吸収力を高め、組織の老化を防ぐにはさらに積極的な地温保持を行なう必要があると思われる。

品種によつてす入りの難易性に大きな差が見られ、おおむね黄色種が遅い傾向を示したが、緑色種にも遅いものが見られた。す入りの発生および進行が遅かったのは、黄色種ではコーネル619、緑色種ではグリーン12、同13、す入りしやすいのは緑色種のセダノ、ジャイアント・ホワイト・ソリッド、フォード・フックであった。

5月まきと6月まきではす入り発生時期の差は僅少で、遅まきによるす入りの抑制は困難と思われる。

す入りを防ぐには気温の保持につとめるとともに、適当な品種を選ぶ必要がある。